



# 10月の園だより

令和6年10月 富田林市立錦郡幼稚園

## しあわせの『トンボ』とともに

～ 今年度後半を前にして ～

とても暑かった夏がようやく終わりを告げ、秋の気配を感じるようになってきました。園庭には、ものすごい数の赤とんぼ(主には『アキアカネ』(秋茜))がやってきています。今年度の『にしこおり』は、この『トンボ』とともに夏を越えてきました。

最初に登場したのは、『ミヤマアカネ』(深山茜)という聞き慣れない名前のとんぼで、金色に輝いていました。京都府ホームページによると、里山の緩やかで小さい流れのある場所が主な生息地で、成虫は6月下旬頃からみられ、未熟な個体は羽化した水域に近い草むらにすることが多い、とのこと。『にしこおり』での初見は6月26日、ビオトープ池周辺であったので、先のホームページの記載通りでした。なお、都道府県別では絶滅した場所もあり、大阪府でも準絶滅危惧種に指定、北部地域では絶滅、南河内地区を含めた大阪南部でも見るのは珍しいのだそうです。続いて『キイトンボ』『クロイトンボ』『セスジイトンボ』などの『イトンボ』が見られました。後ろの二つはきれいな青色をしていました。『キイトンボ』はつい最近までビオトープ池に4～5匹いました。次は『シオカラトンボ』、気まぐれで不定期にやってきます。それから真っ赤な『トンボ』(名前は不明)。最後に『オニヤンマ』、オニ(鬼)というだけあって立派な体格をしていて、こどもたちは大きさに驚き目を丸くさせていました。きっと暑かったのでしょう、陰を選んで飛びまわり、最後は軒下の縦樋につかまるアクロバットまで見せてくれました。

さて、このようにたくさんの種類の『トンボ』が『にしこおり』で夏を過ごしたのは、昨年度のビオトープ大作戦と、その後今日までの『にしこおりファミリー』の自然への関わりが、「この地で生きよう!」と『トンボ』たちに決意させたのだと、私は強く信じています。

現在、こどもたちは、運動会に向けて連日練習を重ねています。夏休みに入る時に伝えた『早寝早起き朝ごはん』が、予想通りここに来て効いてきました。こどもたちの体力そして気力も充実してきて、「やるぞ!」元気な声が園庭に響き渡っています。今年度の後半も、本来の意味での早期教育を引き続き行いますのでよろしく願いいたします。しあわせの『トンボ』とともに。

園長 塩野 義和